

令和2年度（2020年度）第1回「柏崎市男女共同参画審議会」議事録(概要)

日 時 令和2年（2020年）7月31日（金）15：00～17：15
会 場 柏崎市役所第二分館2階 第6会議室
出席委員 新野委員、板羽委員、上野委員、岡田委員、海津委員、片山委員、木下委員、
杉山委員、高橋委員、長澤委員 10人
(欠席：阿部委員、西巻委員)
事 務 局 人権啓発・男女共同参画室
室長 伊部、主幹 宮崎、係長 大橋、主任 真貝
概 要 令和元年度（2019年度）男女共同参画基本計画推進状況の評価について及び次
期男女共同参画基本計画（素案）についての検討

1 開 会

2 総合企画部長あいさつ（欠席）

3 会長あいさつ

4 議 事

(1) 男女共同参画基本計画推進状況報告書の評価について

（事務局から資料1について説明）

議長 基本目標Iで何か質問はあるか。

A委員 No.2の成果で、「市民に対して性別による偏った考え方の防止ができた。」とあるが、具体的にどういうところを見て防止できたと判断されたのか。

事務局 広報における公的広報の手引を、職員誰もが見られるところに格納している。その内容は、市が発行する広報誌や担当課が作るチラシで、例えば仕事の関係だと、男性が中心になって働いているイラストだけではなく、当然働くのは男女なので、女性を入れるという形にする。家庭のことは女性、働くのは男性みたいなバイアスが掛からないように男女一緒のイラストを入れたり、今まで男性のイメージ、女性のイメージだったものを変えて、男女区別なく平等になるようなものにして発信するように職員には投げ掛けている。

議長 市民に対しての手引書を事前に修正するのか。

事務局 内容が古くなっていて、今年度の課題になる。市民向けというよりも内部向けだ。

B委員 2、3ページのNo.1、3、5に「講演会を開催する。」「活動支援を図る。」と2019年度の目標があり、2020年度はそれぞれ抜けているが、コロナを見越して講演会関係は抜いているのか。

事務局 この段階でもうできないと判断したものは抜いてある。様子を見てできるものはやっぴいこうという形になってきているので、2020年度の計画にないが、2019年度にやっていた講演会などを引き続きやるという可能性はある。コロ

ナの影響も考慮して計画している。

議長 コロナで安全を先取りして中止していく方を選択していくのか、工夫をしながら縮小して変形して行うのか。対策を十分にしながら、最終的には中止もやむを得ない、市民はこちらを望んでいると思うので検討いただきたい。

B委員 市のフェイスブックなども以前より見る機会が増えている方もいると察するところで、ツイッターやフェイスブックなどで男女のことを取り上げる機会を持つてみれば、別の方向で効果があると思う。

議長 基本目標Ⅱで何か御意見等あるか。

A委員 No.24ワーク・ライフ・バランスセミナーで効果と成果があるが、市民アンケートで事業所の成功例や取組例をもっと事業所間で共有できるような取組をしてほしいという御意見があった。取組事例がそういうことなのか、外部の講師がこういう取組があるという話をするのか。

議長 講師が来て聴講したという形で、それで効果を感じてもらえたという評価になっている。

A委員 今回の市民意識調査では記述が結構あり、関心が高いというように感じた。市内事業所の方の話を聴けば、もっと身近に感じると思った。

事務局 ワーク・ライフ・バランスセミナーは、事業所の事業主と管理部門の担当者を中心に参加いただいた。ワーク・ライフ・バランスを推進するために、アドバイスしていただく専門の会社の方から講師になっていただき、取組を進めるにはというところで講義をいただいた。

また、既にワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる事業所に来ていただき、様々な問題を、その専門の会社に入ってもらいアドバイスをいただき、今こうやっている、変わってきた様子が分かるような形で事例発表していただいた。

参加者にも、ワーク・ライフ・バランスに取り組むとこのようないい成果が出るということを実感してもらった。身近な取組をしていることで、自分たちもやれるというレベルで気づきもあると思うので、そういったところを発信していきたい。

セミナーがやりっぱなしになっているところが問題であり、どこまで関わっていけるか分からないが、できれば追跡をしたり、事業所の中に入れてもらう形で発信できることがないかと商業観光課とも検討している。

C委員 セミナーの参加者16名とあるが、この数値はどうとらえればいいのか。

事務局 始めた当初の参加者は30名弱、毎年やっているから飽きられることがないよう内容を変えながら行っているが、事業所にチラシを配っても集まらない状態が続き、ハッピー・パートナー企業を中心に広報活動をさせていただいたりしてる。セミナーだけでは苦しくなっているのでは、違うやり方を考えていかなければならない。

議長 ワーク・ライフ・バランスは、職種などで取り組むのに非常に困難な企業もあ

る。概念が分かってくると関心が集まってくるところもある。柏崎は小さい企業がたくさんあるので、関心がないというよりは取り組むことができないところもあると思う。

事務局：室長 ワーク・ライフ・バランスの取組は様々あるので、できるところから少しずつ取り組めればいいし、セミナーに限らず商業観光課と一緒に事業所に出向いたりすることも考えてはいるが、今年はコロナの影響もあり上手く動けない部分もある。皆さんからいただいた御意見により、効果的にワーク・ライフ・バランスを進められるように考えていきたい。

D委員 ズームを使つてのオンラインセミナーなど、コロナの影響で使う事業者が増えている。効率も良くなるし、細かな対応をしてもらい、気軽に相談できるように取り入れていただければと思う。

議長 基本目標Ⅲで何かあるか。

E委員 No.40の「よるラボを7回開催」とあるが、どんな内容をやっているのか。

事務局 まちからで市内の方や市外から来た方たちが柏崎で活躍していて、柏崎のいいところを外から見た目でお話をいただいたりしている。地域おこし協力隊の方などに講師になってもらっている。

A委員 No.40のコミュニティの男女共同参画の推進は、女性参画の推進を、何を目標にしているのか。一人でもセンター長がいればいいのか、コミセンの部会などの部長で女性の参画があればいいのか。

事務局 表の上に指標があるが、計画の中で目指している数値で、各コミセンの地区の代表者、例えば町内会長、コミセンの部会長、子供会の会長などが集まるのがコミュニティ推進協議会で、その女性の割合が30%になることを目指している。子供会の会長は昔ながら女性、町内会長は昔ながら男性、数値が上がってこないというのは固定されてしまっているところが見えている。

A委員 昔からの慣例を打破していかないと、女性の参画はなかなか難しい。

C委員 No.41の令和元年度の事業計画に「避難所におけるプライバシー保護や男女共同参画の視点に配慮した取組と備えを充実させる。」などと書いてある。それに対して実績で「充実を図った。」、成果と課題「取り組むことができた。」、2020年度の事業計画「取組と備えを充実させる。」、言葉だけで数的な、例えば今ダンボールベッドをいくつに増やすなど、具体的なものが何も見えないので、どう前進しているのか。「充実を図った。」の成果は何を根拠に書いてあるのか全く見えないので、市民は納得できないと思う。避難したときに、ダンボールベッドはすぐ届くのか、使えるのかといったときに、こういう書き方だと何も実生活と結びつかない。数的なものを出していただければ有り難い。

議長 全体的に報告書は、根拠になる数値が示せるものもいい。地域の女性役員の目標30%は妥当なのか。次に基本目標Ⅳで何かあるか。

F委員 No.44でDVの相談窓口が周知できたということだが、実際に方法を変えたこ

とで、相談件数が増えているのか。相談の時間帯を長くしたとか、電話だけではなくてSNSの相談も受けたとか、具体的に何か工夫があったのであれば教えていただきたい。

事務局 広報と公共施設の女性トイレに相談窓口周知の名刺サイズのカードを置かせてもらい啓発を図っている。近年のDV相談件数は、290件位で横ばい状態だ。DVは、自ら電話をしたりという発信だけではなく、いろいろな関わりの中からそういった危険や兆候のある人の情報を見つけて関係者につなげていこうということで、DV連絡協議会で警察、市の関係課、様々なところが集まって情報共有の機会が持たれている。昨年目新しいものはないが、見ていく目を持っていこうということで、講演会も支援者向けという形で行っている。

議長 女性用トイレのリーフレットの設置、ホームページの活用は、数値が入っていないのでよく分からない。

事務局 DV相談件数は、入れることは可能だが、相談件数についても目安にはなると思う。

F委員 本人からの直接の相談だけではなくて、関係機関が発見して、しかるべきところにつなげるような体制はあるのか。

事務局 その体制は、ほぼ出来つつある。

G委員 No.44のDV防止講演会は、どのように周知してどんな方が聞いているのか。

事務局 広報かしわざきに掲載し、対象は市民一般で、どなたでも参加できる。昨年だとテーマが、小さいお子さんに関わる内容だったので、個別には幼稚園保育園の先生と民生児童委員に声掛けをした。市の職員だと子育て支援課の支援員に声掛けした。

G委員 テーマによって声を掛ける人が違うということか。

事務局 広報かしわざきやホームページは市民向けで、なかなかそれだけでは集まらないので、テーマに沿ってその関係者の方に声掛けをしている。

G委員 興味を持たせる方法を考えて、教育機関など参加者が増えるようになるといい。

事務局 三年間、小さいお子さんを対象にしたテーマで開催して、今年は小学校の養護教員を対象に考えていたが、夏休みの短縮などで養護教諭の時間が取れないため、児童クラブの支援員さんを対象に、その方たちが接する子どもたち向けというテーマで開催しようと思っている。

D委員 広報かしわざきを市民がくまなく見ているかという点を見ていない。ホームページも毎日新しい情報をチェックしている方は、そうそういないと思う。周知の方法自体を考え直していくのも必要だ。興味を持ってもらう切り口、いきなり講演会だと引いてしまうので、イベントの一角でアンケートを取るとか、気軽に触れられるような機会を作る場を設けて周知する。名刺サイズのリーフレットもよく見るが、公的機関だけではなく、お店や市内中に置くなどして広く知られるといい。情報が欲しい人に届いてほしいが、相談したい人は、自分から探していく方

法が分からない。ラインなどで助けてと言えたらいいと思う。

議長 女性トイレだけでなく、男性も個室になるところへ置けば効果的かもしれないのでやっていただきたい。男性でも煮詰まっている方もいるかもしれない。

H委員 ホームページは、まず検索をすると思うので、検索に引っ掛かるようにしていただきたい。

(2) 次期男女共同参画基本計画（素案）について

（事務局から資料2～2-3について説明）

議長 現計画では、世界との比較が結構ボリュームがある。男女共同参画は、日本の国民の要望からの施策ではなくて、外国から、日本は劣っているという指摘を受けながら施策として進んできている。

いまだに日本は先進国の中で上位に浮上できず、なかなか思うように進んでいかない。男女が働くこともワーク・ライフ・バランスに基づいてだが、労働力が減ったことによって出てきたことで基本的な男女平等の理念は少し弱い。

現実的に足りないところを補おうというのが日本で、世界ではそうではなく、このSDGsのようなきちんとした理念の下で、男女は平等であるということから、世界の考え方は発展してきている。

そうすると、日本のことだけを書いたり、世界の現状だけを書くと、経緯が分からないので、あえて項目を区別して世界と日本を比較して知ってもらおうとしたのが5年前の考え方だ。

これが功を奏したかというとなかなか難しい。改善できるかどうか分からないので縮小することは反対しない。理念の中で、古いことは先置いて、新しいことだけでスタートできるのかということには疑問なので、古いところの何でということをおわきまえて、新しい方向性を見出していきたい。

仮にそれを書くかどうかは別として、スタートがそういうことなので、歪んでしまったところを補いながら、本筋でいかないと未来はないと思う。それを含めて御検討いただき、5年間やってきて成果がさほどないということならば、新しい方策を考えるのも有効なので、御意見をいただきたい。

G委員 現計画の第1章の4番に市民意識調査の概要があるが、新計画の案には抜けている。市民意識調査の総括したものがなくなると、全体が見えなくなる。最初のベースになるようなものが市民意識調査だと思うので、現計画4番の「男女共同参画に関する市民意識の概要」は、そのまま残した方がいいと思う。アンケートの調査結果を全部抜いて項目だけ掲載するというのは賛成だが、全体の内容もあった方がいいと思う。

議長 地方によって条件が違うので、現計画では、現状を踏まえて柏崎らしいものを作りたいたいということで、このページを作った。国や県の方針を唱えつつ、都会は到達していても柏崎は到達しているとは限らない。柏崎固有の風土があるので、

それに基づく違いを意識調査の中で文章化していけばいい。

事務局 アンケートの結果については、現在は設問ごとに数字で入っているが、今回お配りしたアンケート調査の概要版のように、主なカテゴリ別にアンケート結果を出して分析を入れるような形で考えている。もう一つ案として、第3章の計画の施策に、重点目標に係る市民アンケート結果をグラフにして載せ、その重点目標には、なぜこういった施策の方向が必要なのか、市民アンケートはこうなっていると見える形にしたいと考えている。その辺も総合的に考えていただきたい。

議長 例えば、このダイジェスト版だと、経年の比較、国、県、他の地域との特色みたいなものを、代表的なところで比較できるものがあるのではないかと。自分たちの位置付けが分からない。

事務局 国では、ダイジェスト版2ページの「社会全体としての男女の地位の平等感」、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」を経年比較している。

G委員 データ化したものがあれば、根拠にもなるしいいと思う。自分なりの分析を幅広い年代の人ができるのかと考えたときに、全部を把握して、柏崎市民はこうなんだと考えるのはなかなか難しいと思う。現計画の9、10ページの形の方がいろいろ市民の方に興味を持ってもらい、そこから次の重点目標に進んでいけるプロセスができるのではないかと。グラフはそれぞれの重点目標ごとに挟んでいって、最初はまとめた概要版の方がいいと思う。

B委員 資料2-1の新潟県柏崎市の動きを見ると、それぞれ最新のものは2006年と2009年で、一昔前で、ハッピーエンドで終わっている。でも、そうでないからこの計画が引き続き必要であり、これから先の10年が進まないということも含めて、現状と課題に意識調査や分析をワンクッション挟んで計画の本文につなげていけば、流れがいいような気がする。

G委員 資料2-1を見ていただくと、世界の動きが少なくなっていて、世界の動きも日本の動きも現在のことを書くだけだが、それについてはどうか。

H委員 時系列で、年表とは違うが表みたいなので、国、県、柏崎とすれば全体の背景が見られるし、今の位置も分かると思う。

事務局 102ページから年表があるが、それを細かくしたような、イメージとしてはこういう形の方がいいのか。

G委員 これを前の方に持ってきたらどうか。資料のところにあっても人はあまり見ない。それが一枚挟まった上での資料2-1でどうか。

C委員 後ろにグラフなどを載せるということだが、それぞれ重点目標のところにデータがあって、現状などを入れれば見やすいと思う。読み手の側に立てば、あちこちに行かない方がいい。

事務局 重点目標に対するアンケート結果と資料と、両方入れようと考えている。しつこかったらやめるし、重点目標に載っていない他のを入れるかどうかだ。

議長 「〇ページに記載有り」などと誘導するものを入れてもらえればいい。変に飛

んでしまうのもおかしい。

事務局 その方向で考えたい。現計画の9、10ページのように文章で市民意識調査の全体の概要を載せるというのはどうか。

議長 市民意識調査の重要ポイントを、ここでまとめるということだ。柏崎ならではの計画の根本的な情報ということにもなる。貴重な部分ではある。これをこういうような形で、文章で残すのか、他のアイデアがあるか。

D委員 文章が多いとなかなか読み進まないと思う。図やグラフを入れると非常に見やすい。読んでもらうことにより意識を高めてもらいたいという意図がある。

G委員 ここで理解させるというよりも、概要がこんな感じというところからそれぞれの重点目標から誘導させるための入り口だと考えたときに、ここにグラフがあるとすごく分かりやすいが、ここだけで満足してしまう。もう少しコンパクトにして、詳細は何ページと引っ張っていくようにするといひ。

D委員 気になるポイントは変わらなうと思うので、これはここなんだと目次じゃないけれど導入部分としてあるのはいいかもしれない。

議長 アンケートの何ページに根拠になるアンケート調査の結果があるということが同じ場所に書いてあれば、裏付けの数値がすぐに取りれる。もう少しコンパクトでも分かると思う。導入部分でそこまですると、ページが増えてしまう可能性もある。

G委員 イラストやイメージしやすい挿絵があるといい。

議長 これは残す方向の御意見が多いようだが、残すことでよろしいか。

(全委員了承)

G委員 現計画の15ページ「柏崎男女共同参画推進条例」がなくなることになる。これは、条例の中から柱を選んできている。資料2-2の4基本理念のところと重複するのでなくすということだが。

議長 現計画の14～18ページを少し整理をしたいという事務局の要望がある。条例に基づいてすべてのことが動いていて重要な内容になる。現計画では4基本理念として条例の内容の(1)から(5)を入れた。条例という文字は消えるが中身は基本理念として残したのが事務局の案だ。

理念というのはもう少し上位だと思うが4番手でいいのか。この目的のためにこういう理念を持っていると順番に行くのだったらいいのかとも思う。条例自体は後ろの方に残すのか。

事務局 条例全文を載せる。

議長 この書き方は、普通の文章の中に溶け込ませてしまうという事務局案だ。中身は変わっていない。

G委員 条例に基づいているということは、かなり大事なので、計画の目的の「この計画は条例に基づき…」となっているところに、括弧で何ページ参考として書いておいた方がいいと思う。

- A委員 賛成だ。
- 議長 ページの中にそういった配慮を入れればいい。
- G委員 現計画の15ページの条例をなくすのは賛成だが、その場合、新計画の4基本理念のところ括弧で条例の6つの柱と書いておいた方が、基本理念の根拠が分かる。
- 議長 4基本理念と(1)男女の人権の尊重の間に2、3行空けて、その条例の大事なところがここに書かれているといいかもしれない。
- C委員 基本理念というのは何の基本理念なのか。
- B委員 条例の基本理念なのか計画の基本理念なのかよく分からない。
- C委員 ここで示されている6つの柱は、条例の項目で、それを基本理念と言っている。
- 事務局 男女共同参画の実現のために条例がある、その基本理念なので、イコール、そのために計画ができているということだ。
- 事務局：室長 条例の中にこういう計画を作りなさいというのがある。
- 議長 条例の方が後からできた。先に計画がしっかり立てられていたところに条例を明文化した。そのあとの計画では、上位に条例が来るために、条例に基づいてこういうことが行われているという書き回しになってきた。この条例のところを基本理念に置き換えるかどうか。ただの基本理念とすると、疑問がわいてしまう。
- C委員 説明を聞けば分かるが、読む人にとってどうなのか。
- G委員 説明を文章化したらどうか。
- 事務局 ぶら下がりとしては条例があり、その条例の中に基本理念があり、計画があるという位置づけであれば、条例が最初、現計画の15ページにあるような条例があり、理念がある方が分かりやすい。
- 議長 並列的にここに置くことなのか。条例を切り分けた方が分かりやすいのか。そうすれば15ページのようにではなく、計画の目的の前であってもいい。
- G委員 これだと計画があって、そこに条例を持ってきたという感じになる。
- 議長 4の基本理念が1番ではないか。理念に基づいて計画をしていく。
計画の体系は、現行の内容を整理しながら重点目標の辺りにSDGsのマークを入れていくという提案がある。このマークは至るところに入れて、自然に市民に吸収してもらおう。日本は批准しているし、積極的に取り入れて、後からでもいいので勉強していく。入れ方や入れる場所は、御意見があると思うが、これを入れることに関してどうか。

(全委員了承)

では、これは入れる。場所は事務局提案で、重点目標辺りが大まかにまとまっているのでどうかとの考えだがいかがか。お帰りになってから照らし合わせて、また事務局に連絡していただきたい。文章のところ該当するアンケート調査の結果を入れていく。ボリュームが出ないようにしていただければいい。

G委員 現計画の30ページにコラムがあり、入れるかどうか検討中となっているが、豆知識みたいで考えるきっかけになっていると思う。

議長 現計画が104ページになったのは、あれもこれも入れて拡大していった。どれが優先になってくるか。

事務局：室長 必要なものは入れたいと思う。

(3) 次期男女共同参画基本計画の策定スケジュール（案）

（事務局から資料3について説明）

議長 資料1－3二次評価書の審議委員による評価を使って御意見を述べていただくが、できる範囲で書いていただければいい。

事務局 重点目標ごとに評価という形だが、全てにおいて出してくれということではないので、御自分の専門のところを重点的に見ていただいて、持ち寄った意見という形になる。様式は任意で8月末までをお願いしたい。

5 その他

・次回審議会の日程について

事務局：室長 9月下旬を予定している。

6 閉会あいさつ（副会長）